

## システム情報工学研究科特定課題研究報告書概要

年 度	平成 23 年度	学位名	修士(ビジネス)
専 攻	経営・政策科学	専攻	著者氏名 三宅晃司
指導教員氏名 大久保正勝			
報告書題目  <div style="text-align: center;">日本経済の成熟と停滞に関する実証研究 (観光需要の決定要因と観光資源別経験価値の把握)</div>			
報告書概要 <p>本章の目的は、観光需要の決定要因を明らかにすること、観光資源別経験価値を測定することである。そのためにまず、都道府県別の公表データを用いて観光資源の分類を行うことで、都道府県ごとの強み・弱みを把握した。次に、どのような観光資源やアクセシビリティを持つ地域が観光需要に強い影響を与えているのかを明らかにした。また、その他に、Schmitt の経験価値尺度に基づいたアンケート調査を実施し、それぞれの観光資源ごとの経験価値スコアを測定した。そして、これらの分析を用いて、観光資源と観光需要、観光資源別経験価値を比較・検討することで、観光産業の高付加価値化、観光需要の顕在化に向けた提言をすることを目指した。</p> <p>分析の結果、日本の観光資源は歴史資源、自然資源、施設型資源、海資源、自然資源の 5 つに分類された。観光需要に最も影響を与えている観光資源は歴史資源であり、歴史資源を多く持つ地域は多くの観光需要を獲得していることが分かった。また、観光需要に影響を与えるアクセシビリティは、運賃ではなく乗車時間であることも明らかになった。加えて、経験価値に関しても、歴史資源が最も高い価値を提供しており、また、温泉資源も比較的高い経験価値を提供していることが分かった。反面、海資源や自然資源は比較的多くの観光需要を獲得している観光資源であるが、経験価値の観点では、海資源や自然資源が高い価値を提供しているとは言えず、安価で利便性の高い観光資源である点が多くの観光需要を獲得している要因であることが示唆された。</p> <p>これらの結果により、国や自治体は新たな歴史資源の整備や乗車時間の短い交通インフラの整備を行うことが今後の観光開発戦略において重要になることが考えられる。また、観光需要に大きな影響を与えている海資源を持っている地域や自治体が効率的に資源の経験価値の向上を図ることができれば、それが観光消費額の大幅な増加につながるということが示唆された。</p>			
審査日	平成 24 年 1 月 25 日		
審査員	(大学名 職名)	(学位)	(氏名)
主査	筑波大学 准教授	Ph.D. in Management Science	倉田 久
副査	筑波大学 准教授	博士 (経済学)	大久保 正勝
副査	筑波大学 准教授	Ph.D. in Economics	永易 淳